

風土記の丘の花だより¹⁸⁰

今、そしてこれから見られる植物(2023年4月8日)

ソメイヨシノは散り果て、進入路などでサトザクラの「関山・かんざん」が咲き誇っています。そして同じサトザクラの仲間「御衣黄・ぎょいこう」も安藤塚の北で咲いています。毎年、みなさんが開花を待ちわびる緑色のサクラです。トイレの近くではイチヨウ(イチヨウではありませんよ)



も咲いています。これらのサクラは先にも書いているように「サトザクラ」といい、様々な改良品種が作り出され、それぞれに由緒ある名前がつけられています。またこれらは花びらが多く八重咲きなので「八重桜」とも呼ばれます。サクラといえばソメイヨシノを連想することが多いです。それ以外にもサクラには様々な種類や品種があって、長い間楽しむことができます。山ではカスミザクラが咲いています。ヤマザクラと違い、赤っぽくありません。緑の葉と白い花が混じって、なんとなくぼんやり見えるので「カスミ」です。



178号でチラッと予告していますが、ミツバアケビの花が咲いています。写真のように赤茶色で、アケビの白い花とは全く違います。垂れた小さな花が雄花、右側の大きいのが雌花です。アケビは5枚一組の葉ですが、これは名前のおり3枚一組で周りに鋸歯(きよし)があります。秋にはアケビのような実ができますが、少し小さめです。これとよく似ていて葉が5枚一組のゴウヨウアケビがあると聞いていますが、私はまだ見つけられていません。



道沿いの斜面などで白い花が咲いていてよく目立ちます。クサイチゴです。とげが多い植物で、それで周りの草木に絡みつきながら成長し、しばしば群生します。梅雨のころに赤く熟す実はおいしく食べることができます。ジャムにしても美味です。今、地面を這うように生え広がり、黄色い花を咲かせるヘビイチゴも見られ、同じく赤く熟しますが、それはとても食べられたものではありません。この山にはキイチゴの仲間はないようですので、クサイチゴが唯一のおいしい野イチゴかもしれません。あっ、フユイチゴもあったね。



ちょっと奇怪な写真です。ハランの花です。ハランはふつう「ばれん」と呼ばれ、昔はお弁当やお料理の仕切りに使いました。葉ばかりに目がいきますが、根元をかき分けて枯れ葉や枯れ枝を取り除くと、地面すれすれにこんな花が咲いています。座り込んでガサガサ探してみませんか？

冬の間は載せる花を探すのが大変でしたが、今は咲いている花が多くありすぎて、どの花を載せようかと選ぶのが大変です。うれしい悲鳴というやつでしょうか。 松下